

特集

バスが変わる！地域が変わる！

地域内自主運行バスの取り組み

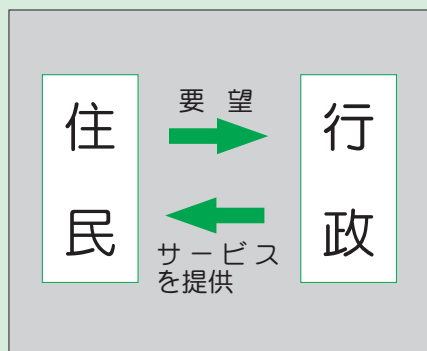


関市は合併以来、広域化した山間地域の公共交通対策に取り組んできました。そして、今年4月から全国でも珍しい形態で、住民による住民のための地域内自主運行バスを走らせています。

特集では各地域のバス運行についてお知らせするとともに、自主運行成功へのカギについて考えてみます。

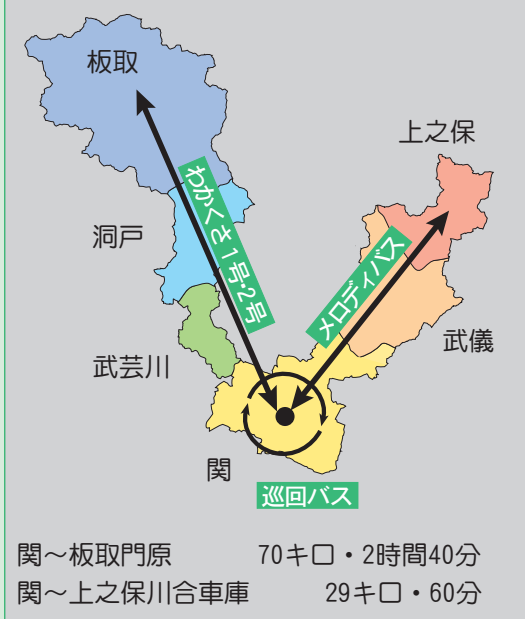


これまでの公共バス運営



平成17年に合併した関市の公共バス運行は、5つの地域を結ぶ運行でした。そのため最大2時間40分に及ぶ長大な路線となり、本数を増やしたりダイヤ改正をしたりすることはとても困難でした。さらには膨大な経費が掛かり、このままでは継続的な運行も厳しい状況となってきました。そこで新たな取り組みを平成20年度から検討し始めました。

これまでの公共バス運行のイメージ



板取地域

事業者
関市板取ふれあいのまちづくり推進委員会

【特徴】

板取地域ではこれまで路線バスを含め1日9本運行されてきました。4月からは門原と洞戸車庫を結ぶ往復路線となり、1日12本と大幅な増便となりました。また、洞戸車庫で市内中心部や岐阜方面への幹線バスへの乗り継ぎが便利になりました。



【事業者】

板取地域内バスの運営を担う板取ふれあいのまちづくり推進協議会は、市の指定管理を受け生涯学習センターの運営なども行っています。



▶理事長 長屋賢治さん

「特にこれから高齢者が多くなってきましたので、こうした方々の足の確保というのは大事な問題となってきました。これまででは板取から岐阜市や名古屋市への通学・通勤は不可能でしたが、今回の自主運行バスで、朝5時40分に門原を出発するバスに乗れば岐阜市の高校は全て通えますし、名古屋市まで通勤することもできます。こうしたバス運行は板取が始まって以来のことです。画期的なバスを走らせることができ、本当に良かったと思っています。」

武芸川地域

事業者
武芸川地域
バス運営協議会

【特徴】

武芸川地域では、これまで福祉バスが地域内を走っていました。今年4月からは地域内運行に限定することで地域内を東回りと西回りの2巡回とし、運行本数は11本と増えました。さらに地域内巡回になったことで、これまでバスルートから離れていた地域の奥までバスが入り、以前と比べてバス停が大幅に増えました。



【事業者】

武芸川地域バス運営協議会は住民による団体で地域内バスを運営するために組織されました。

武儀地域

事業者
NPO法人日本平成村

【特徴】

武儀地域は山間部のため洞が深く、地域内全域を回ると3時間以上も掛かってしまい1日3回が限界でした。4月からは下之保、中之保、富之保地区に週2回、5コースに分け巡回し、月・水曜日5本、火・木曜日が5本というように増便を果たしました。また、幹線道路には関上之保線も併走していることで地域内の各所で乗り継ぎが可能です。



【事業者】

3年前からNPO法人日本平成村が福祉有償運行を行っており、こうした実績を踏まえて地域内バス運行を行っています。

上之保地域

事業者
NPO法人上之保
さつき交流協会

【特徴】

上之保地域ではメロディーバスが運行されてきました。4月からは曜日によって巡回する集落を分けることで、1日の運行本数を増やすことができました。また、使用するバスの小型化によりこれまでは入れなかった戸丁・山中集落にも巡回できるようになりました。スクールバスも含め3台が巡回しています。



【事業者】

上之保地域の地域内バスを運営するのはNPO法人上之保さつき交流協会です。この協会では子どもたちの交流支援活動なども行っています。

洞戸地域

事業者
ほろごまちづくり委員会

【特徴】

洞戸地域はこれまで地域内を巡回するバスはなく、福祉バスが運行していました。この地域は国道に沿って集落が点在していることから、地域内巡回バスを往復運行させることで、1日15便の運行を可能にしました。また、洞戸栗原車庫で板取地域内バスと岐阜バスに接続し、利便性を高めています。



【事業者】

ほろごまちづくり委員会は住民による任意団体で、洞戸地域全体のまちづくりを担う諸団体や個人が参加して地域の祭りや生涯学習活動などを行っており、地域内バスのスタートに当たって運営の受け皿となりました。

▲委員長 後藤信幸さん



「洞戸地域というのは、中心部（市場）から、四方に、谷で分かれていきます。菅谷地区、高賀地区、大野地区、片地区の4カ所を絶えず往復運行しています。4年ほど前から地元のNPO法人でデマンドタクシーなどができないかという検討もしたことがあります。今回、こうしたバス事業の話が持ち上がってきたときに、ぜひともこのバス運行をやりたいと、こちらから申し出まして、まちづくり委員会の中にバス運営協議会を設置し、現在、バスを走らせています。」

自主運行成功へのカギ

本格運行に向けて

今年4月からスタートした地域内自主運行バスは、2年間の試行運転で、平成23年度から地域との協働により本格運行となる予定です。しかし、完全な自主運行に向けては、まだまだ多くの課題があります。

試行運転期間中の作業工程として、地域住民のニーズが反映される運行ルートの作成や、運行ダイヤの設定、高齢者や障がい者でも利用しやすい施設などが求められます。また、何より重要なのが安全運行です。安全安心なバス運行は自主運営の絶対条件であり、運転手の安全講習や運行管理の有資格者の育成などに力を入れなければなりません。

持続的運営のために

本格的な運行を持続していくためには、今後は有償運行も視野に入れなくてはなりません。そのためには利用の拡大を図ることが重要になってきます。地域のバスを育てるのは他の誰でもなく、利用する地域の人なのです。



バスとともに地域が変わる

公共バス運行事業というものは、単に地域住民の足を確保するという目的だけではなく、高齢者福祉や障がい者福祉、医療、雇用、子どもたちの通学、そしてまちづくりなど、地域のさまざまな分野において大きな影響を与える大切な事業です。

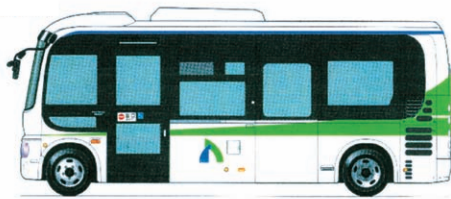
市では、この地域内自主運行バスの運営を契機として、地域住民の皆さんに主体的にまちづくりに関わっていただき、地域のさらなる活性化につなげていきたいと考えています。



スタートしたばかりの地域内自主運行バスですが、今のこの形態が決して最良の形というわけではありません。まだまだ問題や要望などもたくさんあります。

しかし、この地域内バス運行に限らず、「地域で起きている問題を地域住民の力で解決していく」という、こうした取り組みが、これからの関市にとっては大変重要となります。

新型車両のイメージ



関地域の巡回バス が変わります

10月からスタート

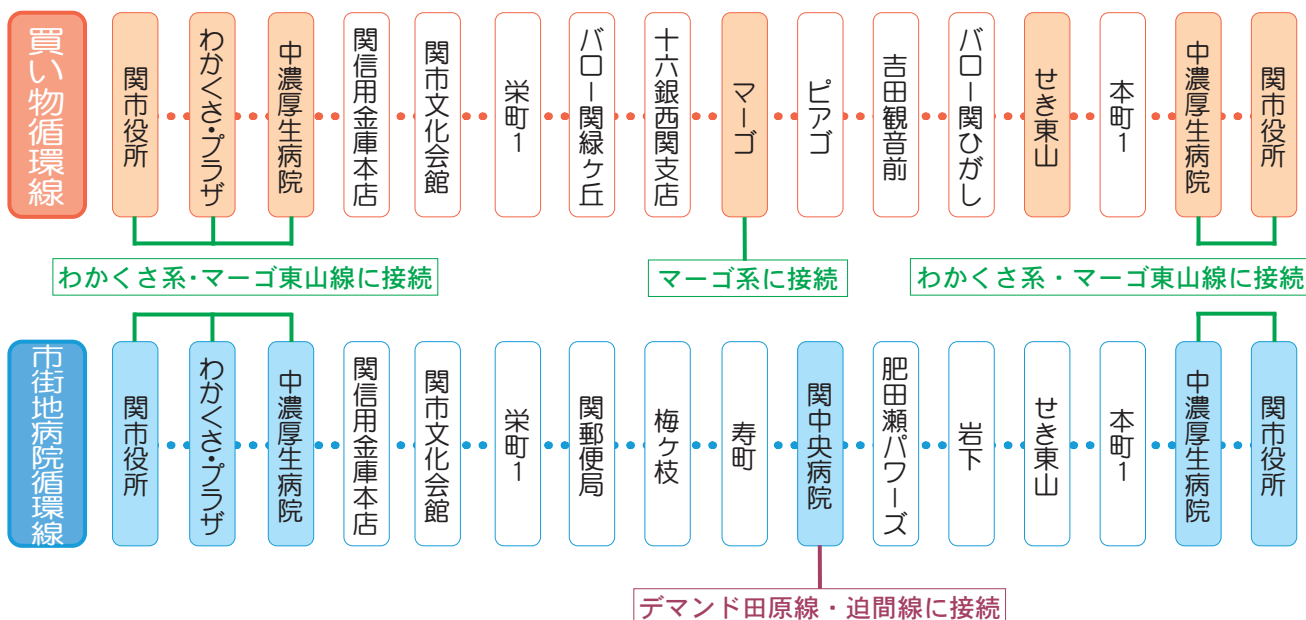
関地域における市内巡回バスについては、利用者の皆さんからの要望を受けて、公共交通会議を重ねてきました。そして10月を目標に市内巡回バスの再編成を行い、新たな運行を開始します。

新しい市内巡回バスの路線

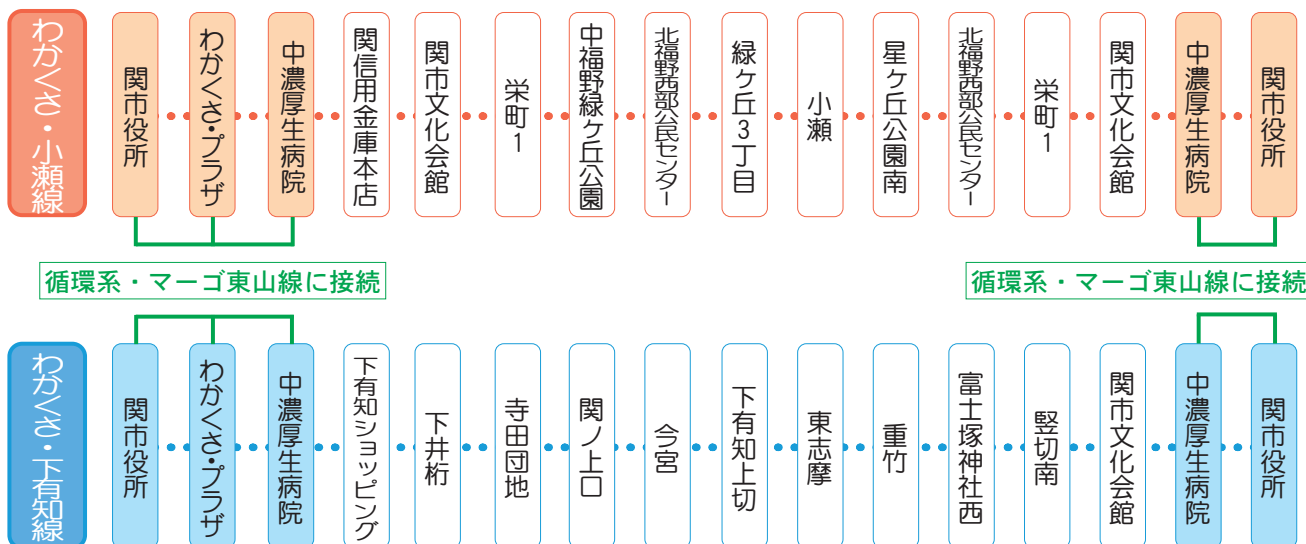
新しい市内巡回バスの主な停留所を掲載しました。詳しい停留所や路線は市役所や支所のほか、市ホームページなどで見る事ができるよう、現在準備を進めています。なお、9月中には時刻表を配布する予定です。

◆照会先 企画政策課 ☎ 23 - 6831

【循環系】 主な停留所

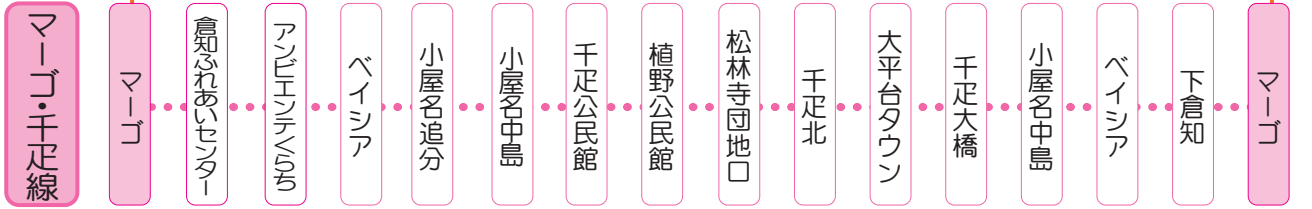
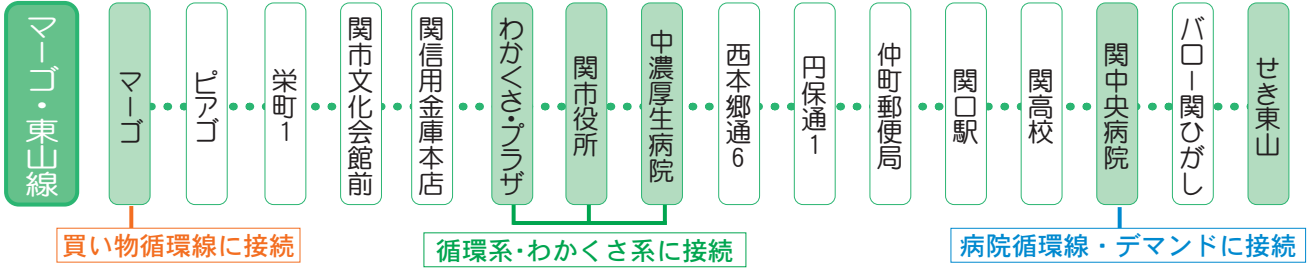


【わかくさ系】 主な停留所



【マーゴ系】

主な停留所



【デマンド系】

(予約型乗合方式)

主な停留所

「デマンド」とは： 利用度が比較的低く広範囲な地域において、需要に見合った効率的な運行ができるDRT (Demand-Responsive-Transit：需要応答型公共交通) のこと。予約により運行するバスです。始発時刻の1時間前までに予約が必要となります。

